所沢市子ども・子育て会議
（平成２５年度第２回）

会　議　録

平成２５年１０月３０日

会議の名称	所沢市子ども・子育て会議（平成２５年度第２回）
開催日時	平成２５年１０月３０日（水） 午前１０時００分から午後０時１５分まで
開催場所	市役所低層棟３階　全員協議会室
出席者の氏名	（会議録別表１）のとおり
欠席者の氏名	平塚　俊夫（所沢市立小中学校校長会） 高田　美智子（所沢市民生委員・児童委員連合会） 松永　隆樹（所沢市私立幼稚園協会） 牧　裕子（地域子育て支援拠点事業運営団体） 渡辺　良雄（所沢地区労働組合協議会） 草刈　由美子（連合埼玉西部第四地域協議会） 本橋　奈穂子（市民公募） 清水　まなみ（市民公募）
説明者の職・氏名	
議題	議事 （１）ニーズ調査の実施方針について （２）ニーズ調査票(案)について （３）その他
会議資料	・議事次第 ・資料１：所沢市子ども・子育て支援事業計画策定に係る ニーズ調査実施要領 ・資料２：ニーズ調査票素案に関する委員の意見一覧表 ・資料３：ニーズ調査票（修正案） ・参考資料：第１回子ども・子育て会議　会議録 ・参考資料：ところっこ子育てガイド(平成 25 年版)
担当部課名	仲こども未来部長 石井こども未来部次長 こども支援課：浅見課長、山﨑副主幹、肥沼主任、岡崎主任 保育課：市川課長、松崎主査 青少年課：堀内課長、中主査 （事務局）こども未来部こども支援課　電話 04-2998-9124

（会議録別表１）

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏　名	出欠席状況	選出母体等
1	根ヶ山　光一	出席	早稲田大学人間科学学術院
2	加賀谷　崇文	出席	学校法人　秋草学園　秋草学園短期大学
3	広瀬　正幸	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	平塚　俊夫	欠席	所沢市立小中学校校長会
5	高田　美智子	欠席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	粕谷　治彦	出席	所沢市ＰＴＡ連合会
7	小沢　貞泰	出席	放課後こども健全育成基本方針運営委員会
8	松永　隆樹	欠席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃　定人	出席	埼玉県保育協議会
10	渡邉　秋則	出席	家庭保育室
11	牧　裕子	欠席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	金丸　慎一朗	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	五十嵐　俊昭	出席	所沢商工会議所
14	渡辺　良雄	欠席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈　由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	本橋　奈穂子	欠席	市民公募
17	仲　直子	出席	市民公募
18	平山　寿代	出席	市民公募
19	清水　まなみ	欠席	市民公募
20	大鷲　賛美	出席	市民公募

発　言　者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	～ 開 会 ～
	■　委員紹介（前回会議欠席者）
	■　会議成立の報告
	■　会長挨拶
	■　資料の確認等
	■　傍聴者入場(10 名)
	■　要望資料の取扱いについて
会長	第 1 回の会議で委員から要望のあった、弁護士会連合会の意見書等を会議の資料とすることについて、事務局から報告をお願いします。
事務局	前回の会議において、弁護士会連合会の意見書等を会議の資料として提供してほしいとのご意見をいただきました。会長、副会長とも相談して、今回、資料として配付しないということとさせていただきました。これらの意見書は、特定の団体が国に対して出したものであって、市の子ども・子育て会議における資料として、特段、必要性が認められないという結論に至りました。各委員、それぞれの立場でご参加いただいていますが、ご意見を述べる際の参考資料としてそれぞれいろいろな資料をお持ちいただいていると思いますので、会議の公式資料として用意する必要はないということになりました。
会長	私と副会長も、その資料に目を通してみたが、国に対する要望で、この会議の場には少しなじまないと感じました。この場は、勉強会ではないので、いろいろな立場のご意見を勉強するということに時間を費やすのは難しいと考えます。ご意見として引用していただくのは大歓迎でありますが、既存の資料に目を通して議論するというのは、時間的にも今回は避けたいと思います。
	≪議事≫
	（1）ニーズ調査の実施方針について
事務局	～ 事務局より資料 1 に基づき説明 ～

	（２）ニーズ調査票(案)について
事務局	ニーズ調査票の案について、事前に委員の皆様からいただきましたご意見の中で特にご意見の多かった未就学児童用の問 16 と修正しました就学児用の問 14 については先にご審議いただき、その後にその他のご意見について、順番にご審議をいただきたいと思います。 ～ 事務局より未就学児童用の問 16 について説明 ～
委員	問 16 で、施設を選ぶ順番が、幼稚園、幼稚園の預かり保育、認可保育所の順になっているが、子育ての保育のことを検討するということや保育を希望する人が多いということから、保育所が一番にきて、次に幼稚園という順番にした方が良いかと思いました。
事務局	問 16 に限らず、いくつかの意見の中で、幼稚園、保育所の並びを逆にした方が良いですとか、表現の中で、教育・保育の充実というところを保育・教育という表現に変えたらどうかといった意見がありました。これに関しては、国の通知等の表現が、すべて教育・保育と統一されていることから、事務局としては国が示すたたき台から変更していません。施設等の記載する順番につきましては、この会議の中で委員のご意見を反映したいと考えます。
委員	委員の意見に賛成です。保育園に入れたくても入れられず待機している母達がたくさんいる状況などを考慮すると、保育を先にした方が良いと思います。
会長	埼玉県修正案も幼稚園が先でそれを踏襲したものと思いますが、委員の意見のように保育を先にするという点は、合理的な理由があると思われるので、事務局で作業的に問題がなければ、全般に保育所を前に持ってくると変更したらどうでしょうか。
事務局	作業的には問題はありませんが、国・県から示されている内容に基づきますと、この順番となっているので、国・県に相談した上で対応したいと思います。
委員	今回は、幼稚園の方も委員としていらっしゃっています。また今回の子どもの新制度というのは、幼稚園も保育園もすべて含めて、子どもたちの未来のために変えていきましょうということで、幼稚園のカテゴリー、保育園のカテゴリーということではなくて、認定こども園を含めて、すべての子どもたちをケアしていこうという案を作っていくものだと思います。あまり、幼稚園、保育園というところを特化して考えすぎると偏った考え方になり、今後の会議に影響が出るような懸念があります。全体のことを考えて進めていく会議にしていくべきだと思います。所沢市の子どもたちのために、どういうシステムを作っていけばよいのかといった、もっと広

	い考え方で進めるべきだと思います。
委員	先日の国会で児童福祉法の第 24 条 1 項が守られました。保育を必要とされる場合公的なところで守っていくというところが、活かされていくという点を考えれば、待機児童が多い中で認可保育所をどういう風に市が取り扱っていくのかということが、このような並び順の中にも現れるのではないかと思います。所沢市の子どもたちのためにという点は、全く同じ考えですが、区別するわけではないですが、公的なところでしっかり守っていくというところを示した方がいいと思い、発言しました。
委員	教育・保育とは子育てのことだと思いますので、子育て事業という表現にしてはいかがでしょうか。
会長	国全体でやっていることで、言葉を変えてしまうと調査結果に影響が出てくるものと思われます。
委員	県の資料にも同じ設問がありますが、おそらく全国的に調査して比較するということが起こるのではないかと推測しますが、事務局の回答のとおり国や県に確認をして変更ができるのであれば変更するという事務局預かりにしてはいかがでしょうか。
委員	県、国版はたたき台としてあると思うので、所沢市独自でどうするかということを市で決めてもよいのではないでしょうか。
会長	その裁量の部分はあると思いますが、先ほど申したとおり、多分これは統計として国全体でとりまとめるという作業が出てきて、所沢市独自の部分は必要なものはあるでしょうが、順番や表現など回答者に与える影響があるようなことは好ましくない可能性もあります。順番の問題は、優劣の順番でもないということで、このままでよいと考えます。他の行政と比較して所沢市はどうかといったことを考えるとこのままの方がよろしいのではないかという気がします。年齢の関係からいけば、保育所から始めた方が良いようにも感じますが、他の行政と比較してデータを歪ませるという問題をはさんでしまうと思います。いろいろなご意見がある中で、このままでいくということでいかがでしょうか。どこかにこの順番には特別な意味はないということが伝わるような注釈を導入の部分で入れてはどうでしょうか。
委員	問 16 で家庭保育室の説明を見たとき、説明がこれだけでは不備ではないかと当初は考えましたが、新たにこのような別紙資料があれば非常にわかりやすいと感じました。実際に子育てをされている委員がこの別紙資料を見てそれぞれの施設の様子が分かるかということでご意見をお聞きしたいと思います。
会長	保護者の立場として、ご覧いただいていかがでしょうか。

委員	アンケートをお答えいただく方には、アンケート調査票、各事業の一覧と「ところっこ子育てガイド」も一緒につけてアンケートに答えてもらうということなのでしょうか。例えば、私がアンケートを答えていて、難しい用語や定義が分からないときに、各事業一覧を見て、それぞれの施設が自分の家の近くにあるかどうか分からないこともあると思います。そのときに子育てガイドを見れば、施設の住所や電話番号が明記されていて、自分の家の近くにあるから利用できる施設だという確認ができます。子育てガイドがないと果たして自分にフィットするところか分からないのではないでしょうか。子育てガイドは、アンケート送付のときに同封されますか。
事務局	子育てガイドは、アンケートには同封しません。別紙の各事業一覧の下段には「子育てガイドがあります」という点を示して、URL からご覧いただけることとなっています。
会長	保護者の立場でご意見があれば、本日の終わりまでの中でお話しいただきたいと思います。
事務局	～ 事務局より就学児童用の問 14 について説明 ～
会長	ご自身の意見が反映されているかといった点からご意見をいただきたいと思います。
委員	問 14 について、いろいろ意見をつけさせていただきましたが、前回の修正前より非常にわかりやすくなっていると思います。ありがとうございました。
委員	息子が三ヶ島小に通っていますが、実は三ヶ島小には、ほうかごところがないのです。多分、地域柄、学区が広いことと祖父母と同居している家庭が多いからではないかと思われますが、市内でほうかごところは、ほぼ全部の小学校で実施しているのでしょうか。
事務局	市内 32 校の内、10 校で実施しています。
会長	問 18-3 で、利用している人は感想、利用していない人は理由をというのが一つの枠で答えるようになっているが、二つに分けた方が良いのではないでしょうか。
事務局	そのように対応させていただきたいと思います。
委員	満足、不満の項目について意見を書いた保護者としては、それが満足であればより良いものになることを、不満であれば改善されることを期待して書くと推測しますが、期待したことが将来的に対応してもらえなくてがっかりされるようなことがあるのであれば不用意に質問してしまってよいのかなと思います。
事務局	書いていただいたことに応えられるか、応えられないかという点はある

	と思いますが、せっかくこのようなアンケートを実施する機会ということで、市民の皆さんが何を期待されているかを把握したいと考えています。
委員	皆さんが何を期待しているかを質問することは良いと思います。違うところについてですが、問 14 の放課後児童クラブで、児童館生活クラブと児童クラブの違いは、保育料でしか分からないのですが、違いはそれだけなのでしょうか。違いについて明記しなくてよいのでしょうか。
事務局	放課後児童クラブとして、児童館生活クラブと児童クラブはどちらも放課後児童健全育成事業として同一事業であり、児童館生活クラブは市の直営で実施しており、児童クラブは民間事業者の方に委託をして実施しています。内容的には、時間の延長などのオプションがありますが、基本的には同一の事業です。大きな違いとしては利用料くらいということです。
会長	そういうことであれば、市の直営か、民間委託かを注釈で記載してはいかがでしょうか。そうすることで、料金の違いの理由が分かるのではないでしょうか。
事務局	学校区によっては児童クラブしかないというところもありますので、説明的には詳しく分けて説明できない状況です。
会長	単純に市の直営か、民間委託かを記載することはどうでしょうか。
事務局	生活クラブは市の直営、児童クラブは民間委託ということで対応いたします。
委員	その違いだけなのでしょうか。児童館生活クラブと児童クラブの違いは、市の直営かどうかと保育料の違いだけなのでしょうか。保育内容は違わないのでしょうか。保育時間も違うということであれば、未就学児童用の調査票の問 26 に同じような質問がありますが、年長さんに質問する場合、その差が分からないと答えられないのではないでしょうか。それとも放課後児童クラブとしてひとまとめで答えてよいのでしょうか。一つの学校区に児童館生活クラブと児童クラブの二つがある場合もあるので、どちらを選んだ方がよいのかという点が分かった方がニーズを把握する上でもよいのではないでしょうか。
事務局	問 14 と問 15 の回答は児童館生活クラブと児童クラブに分けて答えていただくわけではなく、放課後児童クラブとして一緒ですので、特に細かい違いの説明は必要ないと考えています。また、県の調査票でも必須の項目で同様に質問しておりますので、同一事業としてお答えいただければと考えています。
委員	放課後子ども教室がどんなものなのか、児童館生活クラブを除くというとどこまでの範囲なのだろうといった点がわかりにくく、私自身判断ができないです。未就学児童用の問 16 にあったような定義をまとめたような

	ものがあれば、より分かりやすいのではないかと思います。自分の地域には何があって何がないのかといった点が分かるように、例えばURLを記載するなど提示できれば、さらに精度の高いアンケートになるのではないかと提案させていただきます。
委員	例えば、児童館生活クラブと児童クラブがわかりにくくなるのは、回答欄5の児童館を括弧書きで生活クラブを除くと示してあるためで、括弧書きの中を学童保育を除くとすれば、分かりやすくなるのではないでしょうか。児童館生活クラブや児童クラブについては同じものとして理解できると思いますが、定義付けの工夫が必要になる思います。実は、問16の別紙についても違和感があり、あまり丁寧に説明しすぎると答える人が全部読み込まなければならなくなってしまうと思います。分量もありますし、あんまり資料が送られてくると答える気がしなくなってしまうので、回収率が悪くなるのではないかと心配をします。意味を正確にして定義付けをしようとすると、実際の生活でお母さん方が使っている言葉からどんどん離れていってしまうという問題があり、さらに分かりにくくなるという心配もあります。定義の部分であまり正確さにこだわらない方が良いと思います。そこにこだわる保護者の方にはURLで誘導してホームページできちんと確認できるとしたらいいと思います。
会長	保護者の立場からの意見はいかがでしょうか。
委員	実際、保護者としてアンケートを回答してみましたが、難解で非常に時間がかかり、果たして何人の方が回答してくれるのかと思いました。削れるところがあれば削った方が良いのではないかと感じました。関連して議論を変えますが、未就学児童用の部分で、平均いくらという表現がありましたが、平均値はあまり重要ではないので、外した方が良いのではないかという意見が何点かあったと思いますが、そのような点も含めて数字は少しでも少ない方が良いのではないでしょうか。URLを書いて、実際保護者の方が何人見るかといえば疑問ですが、分からないときに別に詳細内容が用意されているのであれば、アンケート調査票に関しては最低限の内容で良いのではないかと思います。
委員	私も保護者としてURLまでたどり着けないと思います。自分で回答するとして見ていて本当に大変なアンケートだと思いました。1年間で何日自分の子どもが休んだかという質問でも、調査対象の子どもを決めているので大丈夫だとは思いますが、例えば上の子は連れて行ったけど下の子は家で見たなど、記憶が曖昧だと日数すら分からないような状況です。ただ、用語の定義はあった方が良いと思います。
委員	私もURLにはたどり着けないと思います。忙しい中、頁をめくりながら

	答えていくので。そこに、より分かりやすい説明があった方が回答しやすいと思います。先ほどの実際の言葉からかけ離れていくという点もそのとおりだと思いますが、身近な言葉で書かれていることが重要だと思いますし、先ほどの平均値は書いていただいた方が選びやすいし、これからのことを考える人にとっては選びやすいのではないでしょうか。
会長	添付資料については一貫してやめた方が良いという意見でもないようですし、見る人は見る、見ない人は見ないということで状況によって活用していただくということで、一応アンケートに添えて送付するということでいかがでしょうか。就学児童用の問 14 については、別紙を添えるということではないようですので、事務局の提案どおりで進めていただきたいと思います。問 14 と問 15 で放課後児童クラブの表現を学童保育に変えたらという意見についてはいかがでしょうか。
事務局	名称については、所沢市独自のものであるが、利用されている方にとっては名称について変えない方がいいと思います。
委員	児童館生活クラブと児童クラブの違いについて、実際、小学生のママ達でも知らない方が多いです。市の直営と民間委託という言葉を入れた方が良いと思います。
委員	放課後の立場からですが、児童館に括弧書きで生活クラブを除くと明記する点が分かりづらいということで、埼玉県修正案を確認すると回答欄は 4 児童館、5 放課後子ども教室、6 放課後児童クラブという順になっており、その方が分かりやすいのではないでしょうか。
会長	その辺りは技術的な問題と考えますので、担当の部署で議論して分かりやすくするということで事務局にお任せしたいと考えます。
委員	順番に関して、県の並び順の児童館、放課後子ども教室、放課後児童クラブですと、所沢市は児童館の中で生活クラブが大きな割合を占めていて、先に児童館がくると生活クラブを利用している方が児童館の方に回答してしまうのではないかということで、児童館の前に児童館生活クラブ・児童クラブを入れた方が間違いが少なくなるのではないかと思います。
会長	回答する方が混乱しないようにすることが重要であって、順番は技術的なことですので、実際をよくご存じの方が整合性をもって調整していただくということで事務局にお任せしたいと思います。
委員	実際に保護者の方に配られるときは、この字の大きさや色合いとなるのでしょうか。
事務局	文字はこの大きさで、色は白黒の予定です。
委員	文字が小さくて、込み入っているかなという意見がたくさんありましたが、もう少し見やすく、また、誰に対する設問なのかという点を分かりや

	すくしていただきたいと思います。誘導も質問の文書に組み込むのではなく別にして、誰が答えればよいのかを分かりやすくしていただきたいと思います。また、もう少し余裕を持って紙面を作ってはいかがかと思います。文京区のニーズ調査票を見ましたが、見やすいし答えやすいと感じましたので、もう少し工夫した方が良いのではないかと思いました。
事務局	非常に分量が多いという点から、最初の印象としてあまり頁数が多くない方がいいということで、頁数も減らしたいという意図を持って文字も少し小さくしています。なるべく、見やすい工夫はしたいと考えております。
会長	アンケートをする上で、分量が多くなると小さい文字にして頁数を減らすかどうかという点は悩むところではありますが、回答者が回答しやすいような調査票にしていただくということで、可能な限り努力していただくということでお願いしたいと思います。
委員	どのくらい調査票を回収できるかという点が重要だと思います。全体で20～30%しか集まりませんでしたでは、その結果でニーズを特定させていいのかという信頼性の議論になることのないように、できるだけたくさん回答が得られるという視点で、回答する人の立場に立った設問を用意したり、レイアウトを工夫したりしていただきたい。お金がかかる、かからないとか、時間的なこと、技術的なことなどあるでしょうが、文字を少なくするために URL に誘導することもやむを得ないと思います。文字を大きくする分、情報が外に出されることも仕方がないと思います。
会長	この調査は単なるアンケート調査ではなく、ニーズ調査として市の行政に活かしていくという調査ですので、そのあたりの主旨を最初の部分で強調し、回答をいただくという方向がよろしいかと思います。できる範囲で工夫していただいて、回答しやすいようにするということでお願いします。
事務局	～ 事務局よりその他のご意見に対して、資料２（差替版）に基づいて随時説明 ～
委員	No.4 については就学児童用の調査票に対しての意見のつもりですが、小学校に入ってからだと学区が分かるだろうということでのコメントです。アンケートで集まってきた結果について、学区毎であれば小学校、中学校で将来このようなニーズだということが測りやすいのではないでしょうか。同じ丁目でも地区によっては 3 つの学区にまたがっている場合がありますので、後で仕分けする際にも学区の方が分かりやすいのではないかという意図です。
事務局	就学児童用は、学区についても回答していただく形で対応したいと思います。

委員	No.12の問8に関して、子育て支援に関して、核家族化、都市化などをキーワードに上げて子育て支援の必要性を書いていますが、今のお母さん達は子どもを預けたくても預けるところがない、相談したくても相談できる人がいない、だから大変なのだという状況があるような気がします。実際にお母さん達と話しをしていると、所沢市におじいちゃんおばあちゃんが近くに住んでいたり、所沢市の事業を活用していたり、預ける所があったり、見てもらえる人がいたりという状況です。ただし、見てもらえる人がいるから大丈夫という訳でないと思います。むしろ、おじいちゃんおばあちゃんが近くに住んでいるのだけれども、そこに子どもを預けることによっておじいちゃんおばあちゃんから何か言われることについて、親がプレッシャーを感じているということから、結局、預けられなくなってしまう状況もあると思います。また、地域の施設を利用してもそこで何か嫌なことを言われて、その施設に行きたくなくなるなどといった状況もあると思います。利用できる所がないから利用できる所を用意しなくてはという議論をしたいのではなくて、利用できるところが本当に役に立っているのかとか、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に子育てをするのにどのようにしたらうまくいくのかといった点などを調査すべきなのだと感じています。ただ、今回の国の示す主旨がそういうことではないことも分かっていますので、いずれそういう調査ができればよいと思っています。
会長	問8-1での親の立場として心苦しいという質問と近いのではないでしょうか。
委員	逆のパターンも考えられます。気軽に預けたつもりが、親の方が負担を感じてしまう。預けることによっていろいろ言われてしまって嫌になるということがあるので意見を提出しましたが、今回はこの意見を反映しなくて結構です。
会長	No.34の問15では、別紙参照のコメントを入れた方が良いと思います。 No.35の問15で、所沢市で実施していないものは省かれているという考えでしょうが、他の市町村でサービスを受けている様な場合もあり得ると思いましたがどうでしょうか。
事務局	他の市町村での利用が考えられるとのことですが、小規模な保育施設は新制度の中で位置づけられるものである点、家庭的保育については既に制度としてはありますが、こぢんまりとした制度で自治体を超えた利用というのは考えにくいと考えておりますので、該当するようであればその他の中でお答えいただくのがよろしいかと思います。
会長	問15のリストから削除されているのは気になりますが、その他での対応ということでお願いします。

委員	No.37 について、実際に施設に見学に来られる方や保護者の方とお話しする中で、料金的な部分というのはかなり重要な部分かと思われます。問16で料金も示されていますが、それに加え例えば1時間どれくらいの料金を希望するのかといった質問があってもよいと思います。
委員	アンケートのような匿名性のあるものですと、希望金額として質問すると無料なら無料の方が良いと書かれるのではないかと思います。状況が分かる方であれば適正な金額を書くでしょうが、逆に質問数を増やすのは好ましくないと思います。
会長	No.37 の希望金額について、採用しないということでお願いします。No.84 について、子どもの気持ちを考えて退職したについては、退職しない人へのプレッシャーにならないかとのことだと思いますが、そのとおりだと思いますので反映させていただきたいと思います。No.85 についても議論の余地はないということで反映してください。　No.91 については、原案どおりとさせていただきます。
委員	一つ一つ質問していけば正確なことは分かると思いますが、自由記述はなかなか書いてもらえず白紙で戻ってくる場合が多いと思います。これだけ選択肢のある調査だと、もう自由記述は書かなくてよいと思う人がいると思います。自由記述を調査の始まりの方に設定するとフレッシュな気持ちで答えてもらえるということで、割と回答してもらえるかと思います。自由記述は重要だと思いますので、ここをいかに書いてもらえるかの工夫が必要だと思います。
会長	選択肢を選んで答えていただいた以外の内容を書いてもらうところですので、先に自由記述しその設問が後から出てきたときに読み飛ばされる可能性もありますので、このままでよろしいのではないでしょうか。
委員	No.101 と No.102 について、前回の会議でニーズ調査の対象年齢については乳幼児が中心とのことでしたが、18歳未満までを対象とした方がよいと意見させていただきました。子育ては児童福祉法でいいます 18 歳未満が対象だと思いますので、中高生の調査を加えてもいいのではないかと思います。国は乳幼児を調査の主体としていますが、せっかく行う調査であるため、中高生も含めた方が良いかと思います。また、委員として 18 歳未満の一般公募で選ばれていますし、子ども達が近い将来親になって所沢市で子育てをしてもらえたらという願いも込めながら、若い方の子育ての考えや所沢市の行政をどのように見つめているのかについて調査したらいかがかと思います。他の市町村ではこのような調査をしているところもありますので、是非一緒に今後の子育てについて調査を加えていただけたらよいと思います。

事務局	対象は 18 歳未満ですし、計画を策定していく段階では中高生のこともどうやって盛り込んでいくかという議論はあると思います。ただし、このニーズ調査自体は、国からのモデルが示され、主に未就学児を対象としており、この調査に関しては未就学児や小学生が中心であると考えます。公募枠の委員として設定しました 12 歳から 18 歳までのお子さんをお持ちの方というのは、過去に未就学児や小学生時代のお子さんを育てた経験者、先輩ママとしての立場からのご意見をいただきたいと考えております。
会長	その年齢のお子さんをお持ちの立場で、子育ての状況をどうお考えかというご意見を出していただきたいと思います。
委員	子育て支援のニーズ調査の中で、他市では別の質問で中高生に質問をしています。例えば将来子どもは何人ほしいか、どのような子育てをしたいかなどの質問をしている市もあります。国・県がモデルを示していますが、所沢市独自の質問をしてはどうかと思いました。
会長	今後の検討課題とし、どこか時期をみて検討していただくということでよろしいのではないでしょうか。
事務局	そのような意識調査については、子どもだけでなく市全体として検討する必要があると考えています。さまざまな機会で検討していきたいと思います。
委員	未就学児童用の 8 頁にある「保育・教育事業」は「教育・保育事業」に修正した方が良いと思います。
事務局	そのように修正して対応します。
委員	No.125 で、現在、実際の小学生の低学年がどのように放課後を過ごしているのか質問した方が良いのではないでしょうか。
事務局	就学児の現在の過ごし方については、問 14 で質問していますので、それで対応したいと考えます。
会長	以上、ニーズ調査票について、ご意見を全部いただき、了承をいただいたということでよろしくお願いします。見やすさなどでの手直しが入るかとも思いますが、よろしくお願いいたします。
	（３）その他
事務局	次回会議開催は、2 月中旬頃を予定しています。 次回の会議内容は、ニーズ調査の集計結果やそれらを基にしたニーズ量などについてご議論いただきたいと思います。
委員	各団体の代表として参加していますが、団体のスケジュールと個人のスケジュールの調整の上で参加しております。できれば、次回の日程については早めに連絡してほしいと思います。

事務局	**なるべく早くご案内したいと考えております。** **■　副会長挨拶** **～閉　会～**